

慶應藤沢

SFC-IV

イノベーションビレッジ通信

慶應藤沢イノベーションビレッジ(SFC-IV)は、中小企業基盤整備機構が大学および地域と連携して運営する起業家育成施設です。起業家や新事業に取り組む事業者の立ち上げ期を総合的に支援します。

【注目企業インタビューシリーズ】

《第3回》〈214〉株式会社 ショーナン

「IT×Agriculture」へ価値を提案する企業
代表取締役 田中利忠氏



ショーナンHP



メイヴの苗と試験醸造の
スパークリングワイン



藤沢で発見された新品種「メイヴ」



田中社長と奥様

【イベント報告】

〈S06〉パワービジョン
〈219〉SFCフォーラム

ふじさわ産業フェスタ出展 2025年5月
コラボ神奈川開催 2025年6月

【新規入居者紹介】

〈202〉アクアゾル研究センター株式会社 2025年3月入居

Keio Fujisawa Innovation Village SFC-IV



SFC-IV:Facebook

注目企業インタビューシリーズ

《第3回》〈214〉株式会社 ショーナン 代表取締役 田中利忠氏

『IT×Agriculture』として取り組んだ農業から繋がった、世界唯一の性質を持つ
赤ワイン用ブドウ品種「メイヴ」の発見。

『Try & Never give up』を体現する代表取締役田中様にお話を伺いました。

（2025年5月9日取材）

（代表取締役 田中利忠氏）



【代表者様について】

—ご経歴やご自身の生き方について教えてください

大学時代は電気学部へ所属し、その後三菱電機株式会社と関連会社にてエンジニアをしていました。
2000年からは株式会社ショーナンの代表取締役に加え、大学での臨時講師などもしています。
元々積極的な性格でしたが、特に三菱電機時代の大型プロジェクト担当の際、世界にまだないものをつくるという大変さよりも面白さにワクワクしました。「何事もあきらめない」を大切に、「なんにでも立ち向かっていく」という自分のスタイルはこうして培われたように思います。

—ご自分の特徴を三つ挙げるとすれば、どのようなものでしょうか

- 1）ドロクさい昭和の技術者と営業スタイル
- 2）世界初でもトライします！
- 3）協力頂ける皆さんと一緒に仕事をしてみたい（特に農業はいいですよ！）

—起業を考え始めたきっかけやタイミングはいつでしょうか

2000年に三菱電機の後輩がスピンアウトしてIT会社を立ち上げた際に、株主（出資者）として携わっていたことがきっかけです。
その後、リーマンショック前夜くらいのタイミングで会社の経営状況が厳しく危機に直面した時に、若い人を助けるぞ、という気持ちで早めに退職し、自身が代表に交代しました。

—様々な事業を手掛ける中で何故ワインと関わることになったのでしょうか

この話のきっかけとしては、ワイナリーの親会社である広告代理店の代表を信金から紹介されて、那須塩原にある会社の研修所にて社員研修としてコメ作り体験をするにあたってのお手伝いを依頼されたことでした。

農業を取り入れたことで研修が非常に上手いことから、2014年の北海道余市郡仁木町のワイナリー：NIKI Hillsヴィレッジの立ち上げから顧問として（現在も）関わることになりました。

ワインは、ただ栽培し醸造し販売するだけではほとんど利益を生みません。薄利多売の事業です。

そこでNIKI Hillsヴィレッジではホテル・レストラン経営、ブドウ栽培の体験会や研修受入など様々な事業を取り入れながら安定したワイン事業を目指して地盤固めを行っています。

また、余市町と仁木町の6次産業化を地元ワイン作りで実現しています。

—メイヴと出会ったきっかけをお教えてください

10年ほど農業をしている中で、藤沢市瀬郷地区でワイン用ブドウを趣味で仲間と栽培していた方が、90歳になるので引退するから誰かブドウ畑を引き継いで欲しいとの依頼があったからです。

その方は、ブドウの木に孫娘の名前「メイヴ」と付けて可愛がっていたので、その方の了解を頂き、藤沢のブドウの木に「メイヴ」と名付けました。「メイヴ」・「Maeve」はアイルランドの神話に出てくるお酒の神様である「メイヴ女王」の名前でした。

ワイン業界は非常に利益率が低く、薄利多売でやっと利益が上がる構造であることをNIKI Hillsでの経験から分かっていたので、ワイン製造の事業ではなく、苗木栽培を手掛けることにしました。



—田中様にとってのメイヴの魅力はどのようなものでしょうか

現在、世界中のワイン用ブドウには無い性質（特徴）を持っているブドウ品種であることです。

2025年3月26日に、「メイヴ」の遺伝子解析（ゲノム解析）をお願いしていた沖縄科学技術大学院大学（OIST）で、研究報告会と記者会見がありました。

「メイヴ」は、ヨーロッパ種の「ソービニオン系」と北米の台木の「リパリア種」の交配した「新品種」で、世界的にも例が無い品種でした。北海道北見の-30℃から沖縄の亜熱帯地域でも無農薬栽培が出来るワイン用ブドウは「メイヴ」の他にはありません。

そんな特徴を持ち、今までの常識を覆す品種として異端児である「メイヴ」の可能性は無限大です！

【会社様について】

—事業内容を詳しく教えてください

「株式会社ショーナン」は2000年に創業し、藤沢に本社、沖縄に支社を持ち、①IT事業、②セキュリティ事業、③農と食の事業の3つの事業を行っています。

IT事業は弊社の本業で、創業以来の事業です。25年も続けていると規模が小さくても収益安定事業となっています。

農と食の事業は、「メイヴ」ブドウ栽培の元の事業で、将来の弊社が進む事業として拡大したい事業になってきています。

栽培は自宅を含む藤沢市周辺において自社で栽培しているものに加え、全国の農家さんに栽培を委託しています。

そして、ワイナリーや6次産業化のコンサルの仕事で、多くの経験や人的繋がりを獲得しています。（日本全国に広がっています。）

—会社の変遷と、農業事業を始められたきっかけや理由を教えてください

最初の「有限会社湘南情報技術研究所」の時期は、事務所を鎌倉市に置き、三菱電機関連のソフトウェア開発をしていました。次に社名変更した「株式会社湘南情報東京」の時期は、事務所を日本橋に置き、都内や全国の企業のIT関係ソフトウェア開発をしていました。

そして現在の「株式会社ショーナン」では、事務所をSFC-IVに置き、データセンター管理の仕事と「メイヴ」の栽培をしています。

日本橋に事務所があった頃、リーマンショックでITの仕事が全くなり、次にITが入る分野は「農業」だと考えました。

それなら、農業を体験しないでシステム開発はできないと思い、自宅の近くにある神奈川県大磯町で耕作放棄地4,000㎡を借りて無農薬野菜を作り始めたのが農業事業を始められたきっかけです。10年ほど野菜作りをしていたら藤沢の「メイヴ」栽培のお話をいただきました。

—社名の由来は为什么呢

「湘南」の文字を社名に入れたかったのと、私が元々鎌倉でウィンド・サーフィンをしていたので湘南海岸のイメージを社名に入れたかったからです。

「メイヴ」ワインの名前では、「ショーナン・ワイン・メイヴ」を国税局へ提出しているので、「ショーナン」名の入ったワインは当社が初めてだと思います。

【コツコツ時いた種が花開き始めたメイヴプロジェクトについて】

—ここ最近の動きとして特徴的なものはどのようなことがありますか



やはり最も大きな出来事としては、沖縄科学技術大学院大学（OIST）での遺伝子解析結果で、世界唯一の品種だと判明したことです。

北米原産の品種「リパリア・グロワール」と「ヨーロッパブドウ」が交配した「メイヴ」は、耐病性・耐寒性に優れ、育つ場所を選びません。



—OISTでの遺伝子解析に至った経緯について詳しく教えてください

この経緯としては、「メイヴ」の起源を突き止めるために、OISTの先生に研究をお願いしたことです。“味”“におい”といった感覚と脳の電気信号の関係性の研究が大学として得意であり専門にされている先生がいることをHPで知ったので、直接連絡を取ったところ、佐瀬先生を紹介していただきました。

—ネットでの的を射たデータ検索、そこから直接大学へ連絡、田中様らしい課題突破力ですね

そのあとスムーズに研究の連携はすすんだのですか？

その時すでに、今帰仁村にて苗木栽培を行っていたので、話も早かったです。北海道では育成が確認出来ており、次は暑い地域でも育つかを確認したく、今帰仁村の村役場に電話をして依頼できる農家さんの紹介をお願いしたところ、山葡萄である“リュウキュウガネブ”といった地のブドウなどを育てている農家さんを紹介していただき栽培を開始していました。

—なるほど、ここでも直接村役場にかかけあい、道を開く…やはり、何でもトライ！の田中様ですね

—そのほかに進行中のプロジェクトについて教えてください

- 1) 広島市内のゼネコンと「瀬戸内ワインプロジェクト」を立ち上げて、広島県三原市内の農業用ハウスで「メイヴ」苗木約2万本を栽培中です。これを瀬戸内7県の畑や離島に展開する事が決まっています。
- 2) 栃木県那須塩原市から茨城県水戸市へ流れる那珂川近隣に「那珂川ワインバレイ構想」を地元企業と民間ベースで始めます。
- 3) 東京都内での「メイヴ」屋上栽培プロジェクト「東京ワインプロジェクト」を、パナソニックホールディングス株式会社や東京農業大学と始めます。このプロジェクトは都市の緑化にもつながる大きな可能性があります。
- 4) パナソニックホールディングス株式会社が運営するECサイト「ハックツ」の「メイヴ」苗木販売を通じて、「メイヴ」の知名度をあげていきます。

- 5) 2025年5月からは藤沢市の「ふるさと納税」返礼品に「メイヴ」ブドウ苗木が登録されました。
(6/18に返礼品第1号の申し込みがありました！)
- 6) OISTの研究成果の発表や亜熱帯の沖縄での無農薬栽培実績の影響からか、ハワイ・カンボジア・ベトナム・台湾・ウガンダなど海外からも苗木輸出の依頼を多くいただいています。



(世界に広がる「メイヴ」の地図と田中夫妻)



(ふるさと納税返礼品第1号の「メイヴ」と田中氏)

—様々なコラボ事業のお話からただ単にワイン作りをされているのではなく、「地域との連携」を目標に取り組みられていると感じました 湘南地域への思いにはどのような源泉がありますか

藤沢産の「メイヴ」なので、近隣の皆様にワイン用ブドウ栽培を楽しんでいただいたり、地域事業に生かしていただきたいと思っています。
「メイヴ」は、ワイン作りだけでなく、ブドウジュース・ジャム等の加工品にも使えるブドウです。地域の特産物作りで活用して欲しいです。
具体的な例としては、農福連携事業として藤沢市内の福祉施設で無農薬栽培の作業を子ども達がしていたり、「メイヴ」栽培作業を、藤沢市内の大学（慶應義塾大学SFC、日大藤沢、多摩大湘南キャンパス）にお手伝いいただいています。産学連携事業や食育利用事業に展開中です。

—最もうれしかったことや成果を感じたことはどのようなことでしょうか

「メイヴ」ブドウの木がお客様の畑で育っている風景を見た時と、「メイヴ」苗木が芽吹いた時期ですね！植物の生長を見ていると楽しいです！

—現在感じている課題はどのようなものでしょうか

- 1) 2～3年後の藤沢市内でのワイナリー建設の実現
- 2) ワイナリーの為の醸造家社員の確保
- 3) 世界展開のためのノウハウ蓄積（自社での解決）

—今年の目標はどのようなものでしょうか

- 1) 「メイヴ」栽培が無い九州地域へ進出
そのために、苗木作りから販売までを各地域（札幌、広島、水戸、東京都内）の協力会社をお願いして日本全国への展開を推進します。
- 2) 「メイヴ」の遺伝子解析（ゲノム解析）
今年度から岡山大学大学院に依頼することで、ヨーロッパ種のソービニオン系の詳細品種までを解析します。
- 3) 農研機構広島と「メイヴ」を活用した「暑さに強いシャイン・マスカット」開発を推進

—田中様の考える、メイヴのゴールはどのようなものでしょうか

「メイヴ」を、世界的に有名なワイン用ブドウ品種にしたい！
地球温暖化の影響で、ワインの世界的な産地：フランスやイタリア、スペインでワイン用ブドウの収穫量が激減しています。暑さにも強く無農薬栽培可能な「メイヴ」は、世界中で栽培可能な品種で、今までワインの産地ではなかった地域でも地元ワインが生産できる可能性があります。世界的にはオーガニック・ワインの需要が高まっています。

【SFC-IVについて】

—SFC-IVご入居のきっかけはなんでしょうか

以前は茅場町の事務所でしたが、コロナでリモートになった中で、藤沢の「メイヴ」ブドウ畑近くでの事務所としてSFC-IVを知り応募しました。

—どんなところに魅力を感じていますか

建物の設備が充実している点、駐車場が安い、シャワー室があり夏の農作業後の利用ではありがたい施設です。
IM室に事業で相談できる方が常駐されているので、いろいろと相談させていただいています。非常に有難いです。
藤沢市からの家賃補助制度も助かります。
神奈川県内や首都圏のスタートアップ・イベントや、慶應義塾大学SFCや日大藤沢、多摩大湘南キャンパスとの産学交流といった紹介も豊富で利用しやすいです。

—他の入居者や藤沢エリアに向けて一言

地元の藤沢市民の方に家庭での、「メイヴ」ブドウ栽培を楽しんでいただきたいと思います。

3年後に、地域の皆様と遠藤近辺で「ショナン・ワイナリー」建設を企画しております。プロジェクト参加者を募集致します。一緒にしませんか？

【奥様からのメッセージ】

私は、主にメイヴの栽培と苗づくりをしています。未だに試行錯誤と発見の毎日です。また、営業や納品のために主人と二人で全国を旅して、多くの方々と出会えたことは、メイヴの魅力のおかげだと感じています。

今後も、メイヴの魅力にとりつかれてしまった主人を助けながら、一緒に歩んでいければいいな。と思っています。



【インタビューの感想】



わくわくにひたむきに、何事も飛び込んで楽しんで取り組まれている様子に触れ、こちらにもエネルギーをたくさんいただく時間となりました！

メイヴの特徴や農業事業についてのお話はもちろん、今までのご経歴や仕事への向き合い方を通じて田中様の核となる価値観を知る時間となりました。

世界唯一の品種の異端児が、藤沢、全国、そして全世界に広がっていくことをSFC-IVメンバー一同応援しています！

(中小企業基盤整備機構 関東本部 峰本)

イベント報告

〈S06〉株式会社パワービジョン ふじさわ産業フェスタ出展 2025年5月24.25日

- 過熱水蒸気乾燥システム事業
(廃棄されていた食材を乾燥・殺菌・粉末化して保存のきく可食材に加工)
 - 非接触はんだシステム販売事業
 - 食品小売卸売、輸出事業
- 多岐にわたる事業を手掛けるパワービジョン。
今回は食品小売卸売事業でふじさわ産業フェスタに出展しました。

首都圏ではあまり目にしない美味しく安心な食品を、代表者自らが目利きとなって、お客様の目線で原材料、生産地や造り方に至るまでを調査し販売しています。



(パワービジョン富山社長 於:秩父宮記念体育館)

〈219〉一般財団法人SFCフォーラム コラボ神奈川開催 2025年6月23日

毎回好評をいただいている「コラボ神奈川」

2025年度最初の今回は株式会社インキュバータ代表取締役石川明氏に「起業家・起業支援者にこそ磨いてほしい『壁打ち』のスキル」について講演していただきました。

(つつい引き込まれてしまう石川氏の話術)



(満席！とにかく参加者の熱気がすごい！)

総勢119名の県内支援者・起業家にご参加いただき、石川氏の講演を通してビジネスパーソンとしてのスキルの獲得に加え、交流によるつながりの輪が広がる機会となりました。



(会場: K-NIC)

〈202〉アクアゾル研究センター株式会社 2025年3月入居



アクアゾル研究センター株式会社のご紹介

「アクアゾル研究センター株式会社」は2024年11月に設立した研究センターです。
何の研究をしているかというと「ナノ物質の検出技術」を進化させ身の回りにある安全性を高める事を追求しています。



私たちのサービスは、人間にとって必要不可欠な「水」を分析するビジネスです。微小なコ
ンタミや化学物質の検出を得意とし、サプリメント、漢方、飲料水などを対象に、最新の
クロマトグラフ装置を用いた水質検査や混入物質分析を行っております。

ナノメートルクラスの物質を高い精度で分析するためには、高額な分析装置が必要です。
しかし、より広い分野、シチュエーションで水の安全性を確保するためには、より多くの企
業や研究者の方々が、この分野に参入できる環境を整備しなければなりません。

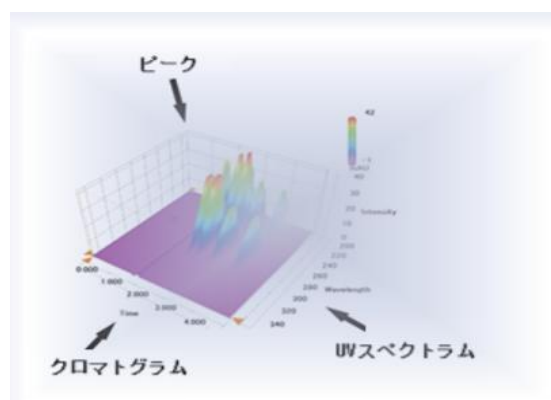
そこで私たちは、一般的なHPLC（液体クロマトグラフィー装置）に独自の技術とノウハ
ウを加え、上級機種種の装置の性能にできるだけ近づけた分析装置を開発します。



イメージ写真

液体クロマトグラフ分析では、試料を装置に通すことで、各物質特有
のピークが現れます。このピークは物質が固有に有する波長に対応し
ており、この仕組みにPDA(Photo Diode Array)を応用することで
高精度な物質検出が出来るよう研究開発を行っています。

私たちは、AIを活用したデータ解析を実施することで高精度かつ効
率的な分析を多くの方々に提供し、分析業界、ひいては社会全体
のさらなる発展に貢献してまいります。



イメージ図